

コンテンツツーリズムを活用した 地域観光振興の可能性

本論では、アニメや映画などの様々なコンテンツがその舞台となった地域の観光振興に効果的に活用できるが、持続性が課題となっているという背景から、コンテンツツーリズムを活用した地域観光振興を効果的に持続させていくための要因は何か、という問いを立てた。これに対し、地域資源とコンテンツの親和性が高い必要がある、という仮説を設定した。ここでいう地域資源とコンテンツの親和性とは、作品などのコンテンツが地域と深く結びついていることを指す。仮説を証明するにあたって埼玉県秩父市と長野県庁へのヒアリング調査を行った。

第1章では、コンテンツツーリズムの定義と先行研究の検証を行った。そこから、様々なコンテンツがその舞台となった地域の観光振興に効果的であるが、持続性が課題であることが分かった。第2章では、アニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』の舞台であり、長年にわたり継続的な観光資源化が行われている埼玉県秩父市を対象に調査を実施した。その結果、コンテンツツーリズムを活用した地域観光振興を持続させていくためには、アニメなどのコンテンツと地域が深く結びついていることが必要であると分かった。第3章では、2025年度に公開された劇場版『名探偵コナン 隻眼の残像』の舞台となった長野県を対象に調査を実施し、<名探偵コナン>のような作品の舞台を特定の地域に限定しない大型コンテンツによる誘客効果は一過性のものであることが分かった。第4章では、秩父市および長野県における事例に関するヒアリング調査の結果と先行研究の比較・分析を行い、コンテンツツーリズムを活用した地域観光振興には、作品と地域資源をうまく組み合わせ活用していくことが重要だと明らかになった。

これらのことから、コンテンツツーリズムを持続的に展開するためには、作品と地域資源を効果的に組み合わせ、さらに作品そのものが地域と深く結びついていることが不可欠であると明らかになった。

以上の結果から、コンテンツツーリズムを活用した地域観光振興を効果的に持続させていくための要因は、地域資源とコンテンツの親和性が高い必要がある、という仮説が証明された。